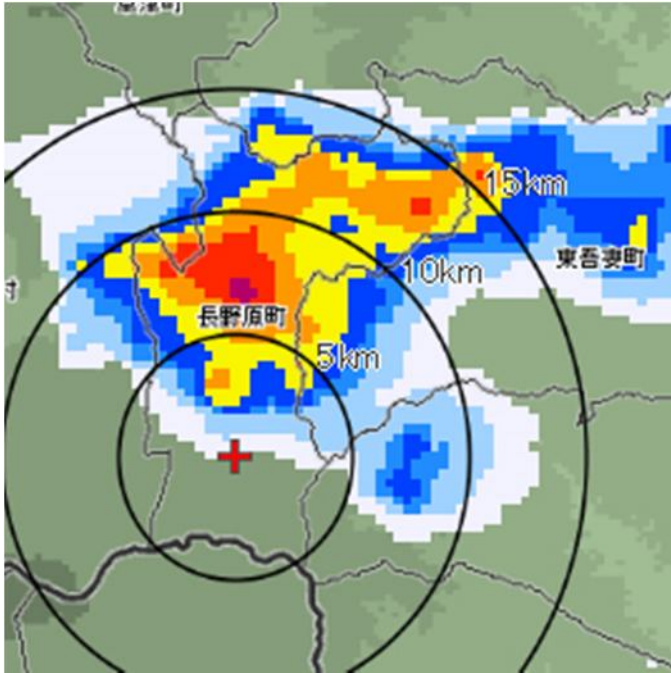


「積乱雲の真下に行く」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

この時期、群馬県の西部や北部は、夕方になると激しい雷雨に襲われることが多い。長野県側(東御市や小諸町)付近で発生した、優勢な積乱雲が山を越えて、嬬恋村・長野原町に移動してくるのだ。8月2日の雷雨は特に激しく、長く続いた。



「8月2日 15:25 の高解像度ナウキャスト」(気象庁)
紫色の表示が80mm/h以上。+が私の山荘の位置。

私は気象庁の高解像度ナウキャストを見て、長野原町北部、特に応桑・古森地区に行けば、雷雲の真下で雨の状態を観察できると思った。こんな物好きは珍しいだろうが、「日々の理科根性」で、すぐに車で出かけた。国道146号線を北上すると、さっそく雹が降り始めた。車のフロントにもガンガン当たって怖い。



道には、雹に打たれた樹木の葉が散乱している。雹を避けて、道端の樹下に避難している車もあった。



その先は国道も冠水。軽自動車が進めずに立ち往生していた。このあたりは傾斜地なので、水はすぐにひく(流れ込む先の吾妻川は大変だろうが・・・)。しかし私は、農作物への雹の被害が心配になった。



思った通り、トウモロコシ畑が全滅していた。ナスやレタスの畑もやられていた。よほど激しく雹が降ったのだろう。雹はまだ積もっていたので、私は車を降りて、雹粒の観察をしてみることにした。(つづく)